第3章 小樽港の目指すべき姿

3.1 意見・優位性・役割等の整理

意見・優位性・役割等の整理を示す。

前回までの委員会意見

- ・物流と観光・交流のバランスが取れた機能再編
 - 地域の将来像を想定した港の役割検討 ・小樽のまちづくりへの寄与、連携
 - 港湾機能維持のための労働力確保
- ・小樽港の優位性を活かした将来展望
- 安全・安心をアピールしたポートセールス
- ·RORO 航路の活用による対岸貿易の活性化

・クルーズ拠点港としての地位確立

- ・マリーナ施設の老朽化、船型大型化、外航ビジタ・ ・大型クルーズ船の受入環境の整備
 - 悉への対応
- ・多様な背後観光拠点や様々な取組との連携 景観を意識した賑わい機能の充実・強化 ・漁業や倉庫など地域資源の活用
- 年齢を問わず安心して楽しめる水辺空間の創出 ・防災対策の促進、防災拠点の形成
 - ・老朽化対策の計画的な推進 ・港内静穏度の確保

・大型船の操船に配慮した安全対策の検討

・港湾の中長期政策「PORT2030」

- 安全・安心対策の推進、石狩湾新港との連携 物流の活性化、「みなと観光」拠点の創出 第7次小樽市総合計画

 - ・小樽市景観計画 ・第3号ふ頭及び周辺再開発計画 ・若竹地区水面貯木場及び周辺有効活用計画

小権珠の課題

 Θ

国・北海道・背後圏における役割

・北海道の産業・経済を物流面から支える港

・北海道の対岸貿易を活性化する港

・地域産業を支え続ける港

- 多様な機能に対応した効率的な港湾空間の構築 総合的視点)
- ,石狩湾新港との連携

(物流・産業)

フェリー拠点としての機能強化

穀物基地としての機能強化 対岸貿易としての機能強化

 \odot \odot \oplus

・クルーズ船やみなと観光から北海道観光の振興

国際港湾都市にふさわしい魅力的なウォーター

レロント

する港

北海道のトリントジャーを支える港

を支える港

滞在型観光の促進による地域の活性化に貢献

- 取扱貨物の荷主ニーズに応える環境整 企業誘致などによる利用促進

 - (観光・交流)

クルーズ拠点としての機能強化

(1) (2) (2) (3)

- マリーナと周辺地区の機能強化
 - みなと観光の機能強化 観光船等の機能強化
 - 安全・安心の機能強化

6

荒天時においても避難船の受け入れに対応でき

小樽・札幌・後志への緊急物資等の輸送拠点

巻湾利用者からの要請

・穀物船大型化に対する喫水確保

・クルーズ船大型化への対応

・老朽化対策の推進

、太平洋側災害時のリダンダンツーに対応する港

(安全·安心)

指すべき姿 Ш

小樽港の強み

·道内経済の中心、札幌圏との至近性 高規格道路網や鉄道網の充実

社会経済情勢

・北海道新幹線の開業・札幌延伸

高規格幹線道路網の延伸

- ・日本海側唯一の長距離フェリー航路 ・中国との直航定期コンテナ航路
- ・ロシア極東地域との定期RORO船航路
 - ・対岸貿易との地位的優位性 ・穀物取扱施設・機能の集積
- 街なかれて至近のウォーターフロント空間

・人口減少社会の到来と労働力不足

・アジア、国内のクルーズ市場拡大

・インバウンド観光客の急増

- ・新千歳空港とのアクセス利便性
- ・災害発生リスクが少ない地域特性

・東南アジアなど新興市場の拡大と製造拠点の

37

3.2 目指すべき姿

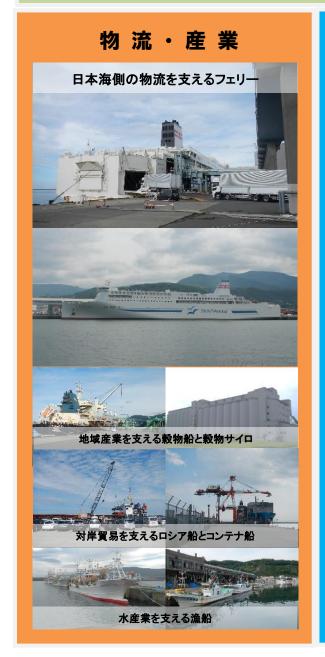
小樽港の目指すべき姿を示す。

将来像

ひと・ものが世界と行き交う 北海道日本海側の物流・交流拠点 小樽港

基本理念

フェリーを核とした物流機能の強化やクルーズ振興などによる賑わいの創出により、ひと・ものが世界と行き交う北海道日本海側の物流・交流拠点港としての発展を目指す。





3.3 小樽港の基本目標と将来プロジェクト

小樽港の基本目標と将来プロジェクトを示す。

序来に向けた課

壍 Ш 基本

かした港湾空間の効率的な利用再編 小樽港の強みである多様な機能を生

や再開発が必要

非効率となっているフェリーターミナル 機能の向上が必要

日本海側の基幹航路をはじめ対岸 貿易における地理的優位性やこれ

物流・産業の基盤強

までの港湾機能集積を生かし、北 梅道の経済・産業を支える物流拠

点としての発展を目指す。

穀物基地として船舶大型化や保管施 設の効率的な配置への対応が必要

非効率となっているロシア取扱岸壁や コンテナヤード機能の向上が必要

水産業の持続的発展を支える基盤の 強化が必要

クルーズ拠点として船舶大型化への対 応や受入環境などの機能向上が必要

点在する観光船発着場への対応や船 大型化に対応するマリーナ機能の向 上や周辺地区の賑わい創出が必要

港を生かした魅力的な観光拠点の創出 や都市側観光資源との連携が必要

溜まり機能の向上が必要

港湾の諸活動の安全確保や災害に強 い港湾施設の整備が必要

生かし、道内外被災地への災害支

援などの防災拠点としての機能を

強化する。

置する天然の良港である優位性を

災害リスクが少ない日本海側に位

安全・安心の基盤強化

円滑な臨港交通の安全確保や港湾施 設の老朽化対策が必要

平米プロジェクト

日本海側フェリー拠点の形成

- 北海道日本海側における 穀物基地の形成 [2]
- 多彩なネットワークで結ばれ る対岸貿易拠点の形成 [3]
- 6 沖台・沿岸漁業を支え、 水産活動基盤の形成 **4**
- 北海道日本海側における 光海道のトラソフジャー クルーズ拠点の形成 [2] [9]
- 観光都市にふさわしい交流 拠点の形成 空間の形成 7
- 道央圏日本海側の防災 拠点の形成 8
- 円滑な港湾活動を支える安 全・安心な港湾空間の形成 6

石狩湾新港と共に道央圏の物流拠点として、日本海側の物流の多様 化、利便性の向上による太平洋側港湾との競争力の強化 <石狩湾新港との連携>

配慮すべき事項】

シャクやクレーズ船をはじめとする

国内有数の観光都市であるポテン

観光・交流の基盤強化

多様な船舶が寄港する海のゲート

ウェイを生かし、国際的な観光・交

流拠点としての発展を目指す。

3.4 小樽港が目指す効率的なふ頭再編・利用再編イメージ

小樽港が目指す効率的なふ頭再編・利用再編イメージを示す。

